

冬の昆虫観察会（令和2年2月2日開催）

野路会のみちかいの井上智雄としおさんを講師に迎えて「冬の昆虫観察会」を開催しました。本日は「おけがや自然塾」と兼ねて開催したため、一般参加者と合わせて72人の参加がありました。

1 事前説明

細田所長から「わら巻調査」についての説明がありました。昆虫やクモなどの小動物が身をかくすため樹皮下へじゅひ潜り込む習性もぐを利用し、冬の間「わら巻」の中に集まり住んでいる小動物の種類や数を調査します。「わら巻」は、「むしろ」や「たたみおもて」を夏に樹木の幹に巻いておきます。この「わら巻調査」は60年前から行われており、様々なデータを得ています。



講師の井上智雄さんからスライド写真により、わら巻の中のにいる小動物について説明がありました。小動物は主にキハダカニグモやキハダエビグモなどクモの仲間、ヤニサシガメやミナミアオカメムシなどのカメムシの仲間、ゴミムシやテントウムシなどコウチュウの仲間ですがその他ムカデやゴキブリの幼虫やラクダムシなど様々な種類がいます。



2 野外観察

ビジターセンター西側ベランダの下側にあるクマバチの巣を観察後、菜の花畑南側生垣の中にあるコガタスズメバチ（クマンバチ）の巣をはさみで切り取り中を観察しました。クマバチとクマンバチはよく混同^{こんどう}して使われますが、クマバチはミツバチ^{みつ}の仲間で蜜をエサにして木の中に巣をつくります。クマンバチはスズメバチの方言としてよく使われる呼称であり、クマバチとクマンバチはまったく別の種類のハチです。



次に、鹿島神社北側のスギとヒノキのわら巻^{えつどう}をはずして、どんな生き物が越冬^{えつどう}しているかを観察しました。観察の方法はわら巻をはずし、小さな虫が地面に落ちないように下で虫網^{むしあみ}を構えます。講師が見つけた小動物を読み上げ、樹ごとに種類と個体数を記録しました。



3 まとめ

ビジターセンターへ戻り、わら卷の中にいた小動物の種類と頭数を樹木毎にホワイトボードへ書き出しました。

(スギ)

キハダカニグモ 5、コアシダカグモ 1、クロウリハムシ 1、ミナミアオカメムシ 1、ヤニサシガメ 1、ルリアリ 1

(ヒノキ)

キハダカニグモ 3、ムカデの仲間 2、クロヘリアトキリゴミムシ 3、トビイロマルハナノミ 1



沼で採取したギンヤンマなどのヤゴやボルボックスを顕微鏡で観察しました。ギンヤンマなどのヤゴは希望により子ども達が持ち帰りました。

